

【9】本調査の主旨も踏まえ、ご意見やお気づきのことがありましたらご記入ください。

【附属学校園の課題・取組に関すること】

- ・魅力ある附属校園を目指し、研究実践に取り組むとともに、広く広報活動を行っています。近隣の附属校園と積極的に情報交換に努めたいと思います。
- ・本園でも、県内の教員不足の影響を受けており、附属園として研究を推進するにしても、欠員のある状況のため、教員一人あたりの負担が大きくなっています。この状況は、交流人事による教員派遣をより一層厳しいものにするのではないかと危惧しているところです。
- ・休務者の補充時に大学の任用条件（年齢制限65歳未満のみ常勤）があり、講師が見つかって常勤として任用できない実情がある。結果として正教員等に業務の負担がかかってしまう。講師が見つかりにくい現状を鑑みて、大学の任用条件の見直しや県教委等の柔軟な対応（講師登録の情報提供等）をお願いしたい。
- ・園運営費だけでは、やっていけない。
- ・福島大学附属幼稚園の状況を聞き、個別の大学法人の方針に対して、全附連が何か意見できる組織になっているのか、教大協とも連携を取りながら、手を打つ必要を強く感じております。
- ・大学（附属学校）に対する国からの予算措置を大幅に増額しなければ、附属の発信する研究内容の質も担保できなくなり、それに伴って、日本全体で教員の資質も担保できなくなることを大変心配している。
- ・望ましい教育環境や研究活動などを進めるには、予算面や制度面での制約が大きすぎる。もっと附属学校の自由度を高め、裁量性のある枠組みの中で、特色ある独自の取り組みを展開することを保障する体制をつくってほしい。
- ・教員の働き方改革に伴う学校運営の在り方に様々な考え方があって当然ではありますが、今一度、「全ては子どものため」という不易の部分すべての教員がもつことで、教育が正常な方向に進むのではないかと考えます。
- ・今後とも、文部科学省→大学法人→各附属校の流れで、円滑に公立校と同様の人員配置や施設の充実に取り組んでいただきたい。

【調査の在り方・意義に関すること】

- ・いつの時代も教育的課題は尽きませんが、このように現場の声を聴いていただける調査はありがたく感じます。
- ・他附属の状況が分かることで、働き方改革、大学への進言などにつながるよさがあります。調査を進めていただき大変ありがたく感じております。
- ・附属学校のあり方を考える意味でも本調査は意義があると考えます。
- ・様々な学校の課題に対して、本調査結果を確認するなどして活用している。（2）
- ・附属学校園としての責務を果たすために、教員の業務環境の改善は必要なことかと思っておりますので、調査結果から参考とさせていただけるところがあるとありがたいと思っています。
- ・厳しい状況の中ですが、調査結果から課題を把握し、解決に向けて全体で考えていけるといいと思います。よろしく願います。
- ・全国の附属学校園の実情をシェアすることで、現状をよりよくするためのエビデンスとして活用できるとよいと思う。
- ・本調査の結果を基に、全附連の会合で情報交換をしたい。
- ・調査を最大限活用していただきたい。
- ・時間をかけて調査をしてくださっているので、調査協力校への調査結果の報告はどのようになっている

るのか、本調査の活用方法について知りたいと思いました。

【調査内容等の改善に関すること】

- ・ジャンルで分けて、短い時間で回答できるものとなり、時期もある程度分けていただけると取組がしやすいです。
- ・それぞれの附属学校に対する調査と大学(附属学校運営部)に対する調査を分けていただけるとありがたいです。(2)
- ・多岐にわたった質問項目を設定してくださりありがとうございました。
- ・文部科学省、大学等の調査が多く、必要な項目のみにしぼっていただけるとありがたいです。
- ・校種別に調査を作成したり、選択肢によって分岐するフォームにしたりしていただくと回答がしやすいです。
- ・他調査で回答している内容(いじめの件数・公開研の参加人数等)は削除してほしい。
- ・設問内容によっては、「その他」の選択肢を追加することが必要かと思われます。
例:給食の実施が年長組のみかつ曜日が不定期の場合、給食センターではなく業者委託による配達弁当の場合など(必須項目なので、便宜上、現状に最も近い内容で回答しました)
- ・本園の状況が選択肢にはなく、その他の項目も設けられていない項目があり、実態を回答できていない。具体的には【1】の2の設問で、本園の状況は、「副校園長は1名いるが園長と兼任している」である。その他の項目を作っていただければ、実態を回答できる。